

情報スペシャリスト学科 令和8年度シラバス

科目名	ビジネス実務Ⅴ		科目コード	11053001		
	区分	開講時期		時間数	単位数	企業連携
	必修講義	3年	前期	40	2	無
授業の概要・目的	<p>日々変化・進歩しているビジネス社会で働く「人材」には、仕事を処理するために必要な専門知識はもとより、基本的な社会常識やビジネスマナー、さらには優れたコミュニケーション能力が必要となってくる。</p> <p>そのために必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力の習得を目的とし講義内容とする。</p> <p>就職に必要なマナー、面接対策、コミュニケーション力などの実践力を養い、自分の将来をしっかりと見つめて働くことや職業への理解を深めていく。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の強みを知り、効果的に自分を伝える方法を学ぶ。 ・社会人としてマナーの必要性を理解させるため、業界での必要とされる人材を意識させ、ロールプレイングを取り入れ、実践させていく。 ・明確な目標設定ができ、それに向かって努力ができる。 ・マナー、礼儀を身につけ、社会人としての判断ができる。 					
評価項目	期末試験65%、出欠席(5%)、提出物30%					
評価基準	期末試験：各単元の理解度をはかる試験を実施し評価する。					
担当教員	近藤 進介		常勤			
実務経験者による授業	ミドルウェア、IaaSシステムの開発8年					
テキスト・参考文献	「ビジネスマナー基本テキスト」日本能率協会マネジメントセンター					
関連科目						
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 国語(語彙・文法・読解) 2) 数学(数的処理・論理) 3) 英語(語彙・文法・読解) 4) 地理・歴史・公民 5) 時事問題 6) ビジネスマナー 7) 学科運営 					
事前事後学習						

情報スペシャリスト学科 令和8年度シラバス

科目名	情報処理技術者Ⅳ			科目コード	11020201	
	区分	開講時期		時間数	単位数	企業連携
	必修講義	3年	前期	85	4	無
授業の概要・目的	情報処理技術者試験の取得を目指し、各分野の専門用語の確認、思考問題の強化、過去問題を中心に総仕上げを行う。					
到達目標	午前、午後分野の過去問答練を中心とした授業を行う。教師からの解説に加えて、学生同士の学び合い、アクティブラーニングを通じて全体の実力アップをはかる					
評価項目	模擬試験結果 20%) 本試験結果 75%) 出席率 5%)					
評価基準	本試験の合否、及び得点率より評価する。加えて授業中に行う模擬試験結果も評価に加える。					
担当教員	近藤 進介			常勤		
実務経験者による授業	ミドルウェア、IaaSシステムの開発8年					
テキスト・参考文献	授業中に適宜資料を配布する					
関連科目	コンピュータ概論 ネットワークセキュリティ アルゴリズム概論 情報リテラシー					
授業計画	1 対策説明 2 午前問題答練 3 午後問題答練 4 模擬試験1 5 弱点補強 6 模擬試験2 7 総まとめ 8 決起会					
事前事後学習						

情報スペシャリスト学科 令和8年度シラバス

科目名	サーバーサイドⅢ			科目コード	11083101	
	区分	開講時期		時間数	単位数	企業連携
	必修演習	3年	前期	60	4	無
授業の概要・目的	JAVAを用いたWEBアプリケーション構築について、フレームワークを用いた開発について理解する。					
到達目標	フレームワーク導入のメリットについて理解し、状況に応じて適切なフレームワークの選定ができる知識を身につける。					
評価項目	模擬試験結果 20%) 本試験結果 75%) 出席率 5%)					
評価基準	Springフレームワークの基本的な処理と記述方法の理解度を確認する筆記試験を実施する。授業中の提出課題も評価に加える。					
担当教員	藤井 克俊			常勤		
実務経験者による授業	SEプログラマー 5年					
テキスト・参考文献	「Spring Framework超入門 やさしくわかるWebアプリ開発」技術評論社					
関連科目	プログラミングⅠ プログラミングⅡ サーバーサイドⅠ サーバーサイドⅡ					
授業計画	1 Spring Frameworkについて 2 Spring Frameworkのコア機能(DI) 3 Spring Frameworkのコア機能(AOP) 4 テンプレートエンジン(Thymeleaf) 5 バリデーション機能 6 たプログラムを作成しよう 7 アプリケーション開発演習					
事前事後学習	予習・復習において、内容の確認および整理を行い、理解度と課題を明確にすること。(目安:10時間)					

情報スペシャリスト学科 令和8年度シラバス

科目名	PBL II			科目コード	11085401	
	区分	開講時期		時間数	単位数	企業連携
	必修演習	3年	前期	100	4	無
授業の概要・目的	クロスプラットフォームのアプリケーションを開発する。 身近な課題をITで解決することを目的とし、グループ毎に題材を決めてプロジェクト開発を行う。					
到達目標	チーム内で相談して制作物を企画し、役割分担して開発を進める。多人数での開発におけるリーダーシップ、フォロワーシップの発揮、SEとして求められるコンピテンシーを発揮し、各自が主体的に課題解決にむけて取り組めるようになること。					
評価項目	制作物 70%) プレゼンテーション 25%) 出席率5%)					
評価基準	システム設計や開発技術で学んだことを実践できているか、チーム内での動き方、最終的な制作物で評価を行う。					
担当教員	近藤 進介			常勤		
実務経験者による授業	ミドルウェア、IaaSシステムの開発8年					
テキスト・参考文献	授業中に適宜資料を配布する					
関連科目	システム開発 開発技術 プログラミング I プログラミング II フロントエンド I フロントエンド II					
授業計画	開発実習					
事前事後学習						

情報スペシャリスト学科 令和8年度シラバス

科目名	IoT			科目コード	11085501	
	区分	開講時期		時間数	単位数	企業連携
	必修演習	3年	前期	45	3	無
授業の概要・目的	IoTの基礎概念からセンサ・通信・クラウド連携までを体系的に学び、実習を通して実用的なIoTシステム構築力を身につけることを目的とする。					
到達目標	IoTの構成要素と動作原理を理解し、センサデータの取得から通信・可視化までの一連の流れを実装できる実践的な開発ができるようになる。					
評価項目	制作物 25% 期末試験 70% 出席率 5%					
評価基準	グループで制作したIoTシステムと各単元の理解度をはかる試験を実施し評価する。					
担当教員	近藤 進介			常勤		
実務経験者による授業	ミドルウェア、IaaSシステムの開発8年					
テキスト・参考文献	「図解即戦力 IoT開発がこれ1冊でしっかりわかる教科書」 技術評論社					
関連科目	センサ回路演習 Python					
授業計画	1.IoT開発とは 2.IoTデバイスとセンサ 3.通信技術とネットワーク環境 4.IoTデータの処理と活用 5.クラウドの活用 6.模擬開発					
事前事後学習	予習・復習において、内容の確認および整理を行い、理解度と課題を明確にすること。(目安:5時間)					

情報スペシャリスト学科 令和8年度シラバス

科目名	ビッグデータ処理			科目コード	11085601	
	区分	開講時期		時間数	単位数	企業連携
	必修演習	3年	前期	45	3	無
授業の概要・目的	ビッグデータの収集・蓄積・処理・分析の仕組みを体系的に学び、分散処理やデータ基盤の基本技術を理解するとともに、データ活用の全体像を把握することを目的とする。					
到達目標	ビッグデータ処理を構成する技術を理解し、分散処理やデータ基盤を活用してデータの収集・加工・分析を行い、課題解決に活用できるようになる。					
評価項目	期末試験75% レポート20% 出欠席(5%)					
評価基準	ビッグデータ処置の基本的な知識に付いての理解を確認する筆記試験を実施する。授業中の提出課題も評価に加える。					
担当教員	木戸 善之			非常勤		
実務経験者による授業	アプリケーション、ミドルウェア開発9年					
テキスト・参考文献	「図解即戦力 ビッグデータ分析のシステムと開発がこれ1冊でしっかりわかる教科書」 技術評論社					
関連科目	AI概論 統計・データ分析 Python					
授業計画	1.ビッグデータ分析の全体像 2.ビッグデータ分析システムのアーキテクチャ 3.分散処理の基礎 4.機械学習の基礎 5.ビッグデータの収集 6.ビッグデータの蓄積 7.ビッグデータの活用 8.メタデータ管理					
事前事後学習	予習・復習において、内容の確認および整理を行い、理解度と課題を明確にすること。(目安:5時間)					

情報スペシャリスト学科 令和8年度シラバス

科目名	インフラセキュリティⅡ			科目コード	11085701	
	区分	開講時期		時間数	単位数	企業連携
	必修演習	3年	前期	45	3	無
授業の概要・目的	CTF(Capture The Flag)対抗戦を実施することにより、攻撃側の心理をシミュレーションすると同時に、防御側の技術を高めることにより、インフラにおけるサーバー周りのセキュリティ技術の向上を目的とする。					
到達目標	脆弱サーバーへの攻撃手法を理解し、防御および復旧技術を高める。攻撃の兆候を検知する方法を確立し、サーバー運用の可用性を高めることができるようにする					
評価項目	レポート(90%)、授業態度(5%)、出欠席(5%)で評価をつける。					
評価基準	チーム戦となるので、その貢献度を授業中の態度およびレポートから評価する					
担当教員	長瀬 宗二			常勤		
実務経験者による授業	システムエンジニア32年。内高専の非常勤講師6年					
テキスト・参考文献	「体系的に学ぶ安全なWebアプリケーションの作り方」SBクリエイティブ					
関連科目	インフラセキュリティⅠ					
授業計画	CTF(Capture The Flag)対抗戦とは CTFの準備 第1回CTF(チュートリアル) 第2回CTF 第3回CTF					
事前事後学習						

情報スペシャリスト学科 令和8年度シラバス

科目名	ログ解析			科目コード	11085801	
	区分	開講時期		時間数	単位数	企業連携
	必修演習	3年	前期	45	3	無
授業の概要・目的	ログ解析の基礎技術と分析手法を理解し、ログ収集・可視化・分析を通じてシステムの状態把握や障害原因の特定ができる実践的な運用力を養うことを目的とする。					
到達目標	ログ解析に必要な技術を理解し、ログの収集・可視化・分析を通じてシステムの状態把握や異常検知、障害原因の特定できるようになる。					
評価項目	期末試験75% レポート20% 出欠席(5%)					
評価基準	期末試験:各単元の理解度をはかる試験を実施し評価する。 期末試験に加えて、授業態度、レポートを含めて総合的に評価する。					
担当教員	赤木 伸			非常勤		
実務経験者による授業	1982年-1987年制御系SEとして、大型プラント作成に従事。1987年-1989年情報提供システム構築にユーザ側SEとして従事。1989年-専門学校システムの構築、運営に従事。					
テキスト・参考文献	「実務で役立つ ログの教科書 基礎知識から収集方法・分析手法・トラブルシューティング・パフォーマンス最適化・機械学習での活用まで」 翔泳社					
関連科目	セキュリティ演習 インフラセキュリティⅠ、Ⅱ					
授業計画	1.ログの基礎知識 2.ログの記録と収集 3.ログの分析手法 4.セキュリティ面での活用方法 5.ビジネス面での活用方法 6.AIによるログ分析					
事前事後学習						

情報スペシャリスト学科 令和8年度シラバス

科目名	ビジネスプランニング			科目コード	11082901	
	区分	開講時期		時間数	単位数	企業連携
	必修演習	3年	前期	45	3	有
授業の概要・目的	ユーザ視点でのサービスのニーズ、課題の本質を発見、理解する力を身につける。 新規ビジネスモデル設計のプロセスとPDCAを理解し実践する					
到達目標	既存のビジネスモデルを研究した上で、ビジネスモデルキャンバスを用いて、ITに限らない新たなビジネスモデルを模索する課題発見型の授業展開を行う。					
評価項目	ビジネスプランプレゼンテーション 50% 期末試験:45% 出欠席(5%)					
評価基準	チームでのプレゼン完成度、及びそこに至るチーム内での貢献度。 期末試験は論述式とし、評価に加える。					
担当教員	岡本 和也			常勤		
実務経験者による授業	ネットワークセキュリティ コンサルティングセールス4年					
テキスト・参考文献	「いちばんやさしいデジタルマーケティングの教本 第2版 人気講師が教えるコミュニケーションと販促の新しい基礎」 インプレス					
関連科目	プレゼンテーション技法					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.ユーザ視点の重要性とニーズ発見の基礎 2.ペルソナとカスタマージャーニーの作成 3.課題の本質を捉えるリサーチ手法 4.既存ビジネスモデルの分析とケーススタディ 5.ビジネスモデルキャンバスの構造と活用法 6.仮説立案と価値提案の設計 7.新規ビジネスモデルの構想と検証 8.PDCAによる改善とフィードバックの活用 9.プレゼンテーションに向けたプランのまとめ 10.ビジネスモデルの発表と相互フィードバック 					
事前事後学習	予習・復習において、内容の確認および整理を行い、理解度と課題を明確にすること。(目安:10時間)					

情報スペシャリスト学科 令和8年度シラバス

科目名	ビジネス実務VI			科目コード	11053101	
	区分	開講時期		時間数	単位数	企業連携
	必修講義	3年	後期	20	1	無
授業の概要・目的	<p>日々変化・進歩しているビジネス社会で働く「人材」には、仕事を処理するために必要な専門知識はもとより、基本的な社会常識やビジネスマナー、さらには優れたコミュニケーション能力が必要となってくる。</p> <p>そのために必要な社会常識、ビジネスマナー、コミュニケーション能力の習得を目的とし講義内容とする。</p> <p>就職に必要なマナー、コミュニケーション力などの実践力を養い、自分の将来をしっかりと見つけて働くことや職業への理解を深めていく。</p>					
到達目標	就職活動に向けて、一般常識やSPI対策などを学習する。社会に出るために必要な知識を広く身につけるとともに、道徳観、倫理観を身につける。					
評価項目	期末試験95%、出欠席5%					
評価基準	期末試験：各単元の理解度をはかる試験を実施し評価する。					
担当教員	近藤 進介			常勤		
実務経験者による授業	ミドルウェア、IaaSシステムの開発8年					
テキスト・参考文献	「ビジネスマナー基本テキスト」日本能率協会マネジメントセンター					
関連科目	ビジネス実務Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、Ⅴ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1) 国語(語彙・文法・読解) 2) 数学(数的処理・論理) 3) 英語(語彙・文法・読解) 4) 地理・歴史・公民 5) 時事問題 6) ビジネスマナー 7) 卒業研究準備 8) 学科運営 					
事前事後学習						

情報スペシャリスト学科 令和8年度シラバス

科目名	情報処理技術者V			科目コード	11020801	
	区分	開講時期		時間数	単位数	企業連携
	必修講義	3年	後期	85	4	無
授業の概要・目的	情報処理技術者試験の取得を目指し、各分野の専門用語の確認、思考問題の強化、過去問題を中心に総仕上げを行う。					
到達目標	午前、午後分野の過去問答練を中心とした授業を行う。教師からの解説に加えて、学生同士の学び合い、アクティブラーニングを通じて全体の実力アップをはかる					
評価項目	模擬試験結果 20%) 本試験結果 75%) 出席率 5%)					
評価基準	本試験の合否、及び得点率より評価する。加えて授業中に行う模擬試験結果も評価に加える。					
担当教員	近藤 進介			常勤		
実務経験者による授業	ミドルウェア、IaaSシステムの開発8年					
テキスト・参考文献	授業中に適宜資料を配布する					
関連科目	コンピュータ概論 ネットワークセキュリティ アルゴリズム概論 情報リテラシー					
授業計画	1 対策説明 2 午前問題答練 3 午後問題答練 4 模擬試験1 5 弱点補強 6 模擬試験2 7 総まとめ 8 決起会					
事前事後学習						

情報スペシャリスト学科 令和8年度シラバス

科目名	卒業研究 I			科目コード	11070301	
	区分	開講時期		時間数	単位数	企業連携
	必修演習	3年	後期	80	3	有
授業の概要・目的	3年間の集大成として、今まで学習したシステム開発に関する知識、スキルを活用し、テーマに沿ったシステムの企画提案及び開発を実施する。					
到達目標	企画～開発、プレゼンテーションまでをチームで協力して納期までに完成させる。教師は成果物のレビューやアドバイスを行うが、基本的には学生が主体的に開発を完遂させることを求める。					
評価項目	制作物50% プレゼンテーション25% レポート20%) 出欠席(5%)					
評価基準	システム設計や開発技術で学んだことを実践できているか、チーム内での動き方、最終的な制作物で評価を行う。					
担当教員	近藤 進介			常勤		
実務経験者による授業	ミドルウェア、IaaSシステムの開発8年					
テキスト・参考文献	授業中に適宜資料を配布する					
関連科目	PBL I、II					
授業計画	開発実習					
事前事後学習						

情報スペシャリスト学科 令和8年度シラバス

科目名	ユーザマネジメント			科目コード	11084201	
	区分	開講時期		時間数	単位数	企業連携
	必修講義	3年	後期	30	2	無
授業の概要・目的	ITを活用した現代ビジネスにおいて、顧客・ユーザとの関係構築や信頼維持の重要性を理解する。SNSやCRM、カスタマーサポートなどのITツールを通じて、効率的かつ効果的なユーザマネジメントを実現する知識と考え方を習得する。					
到達目標	ユーザ満足度向上やリピーター獲得を目指したIT活用の手法を理解する。顧客の行動分析やニーズ把握、フィードバックの活用、炎上対策などを学び、実務で役立つユーザマネジメント能力を身につける。					
評価項目	期末試験60% レポート35% 出欠席5%"					
評価基準	課題提出や発表、小テスト、期末試験の結果に基づき総合的に評価する。ITツールの活用力、ユーザ視点の思考、分析結果を基にした提案力、そしてチームでの協働姿勢などを重視して評価する。					
担当教員	岡本 和也			常勤		
実務経験者による授業	ネットワークセキュリティ コンサルティングセールス4年					
テキスト・参考文献	授業中に適宜資料を配布する					
関連科目	ビジネスプランニング 卒業研究Ⅱ					
授業計画	<ol style="list-style-type: none"> 1.ユーザマネジメントの基礎と重要性 2.SNSとロコミ時代の信頼構築と炎上対策 3.顧客行動分析とパーソナライズの考え方 4.CRMとカスタマーサポートツールの活用 5.フィードバックの収集・分析と改善プロセス 6.実践演習：ユーザ視点でのサービス設計と提案 					
事前事後学習						

情報スペシャリスト学科 令和8年度シラバス

科目名	卒業研究Ⅱ			科目コード	11070401	
	区分	開講時期		時間数	単位数	企業連携
	必修演習	3年	後期	120	4	有
授業の概要・目的	3年間の集大成として、今まで学習したシステム開発に関する知識、スキルを活用し、他学科や企業を巻き込んだテーマに沿ったシステムの企画提案及び開発を実施する。					
到達目標	企画～開発、プレゼンテーションまでをチームで協力して納期までに完成させる。教師は成果物のレビューやアドバイスを行うが、基本的には学生が主体的に開発を完遂させることを求める。					
評価項目	制作物50% プレゼンテーション25% レポート20%) 出欠席(5%)					
評価基準	システム設計や開発技術で学んだことを実践できているか、チーム内での動き方、最終的な制作物で評価を行う。					
担当教員	近藤 進介			常勤		
実務経験者による授業	ミドルウェア、IaaSシステムの開発8年					
テキスト・参考文献	授業中に適宜資料を配布する					
関連科目	PBLⅠ、Ⅱ 卒業研究Ⅰ					
授業計画	開発実習					
事前事後学習						